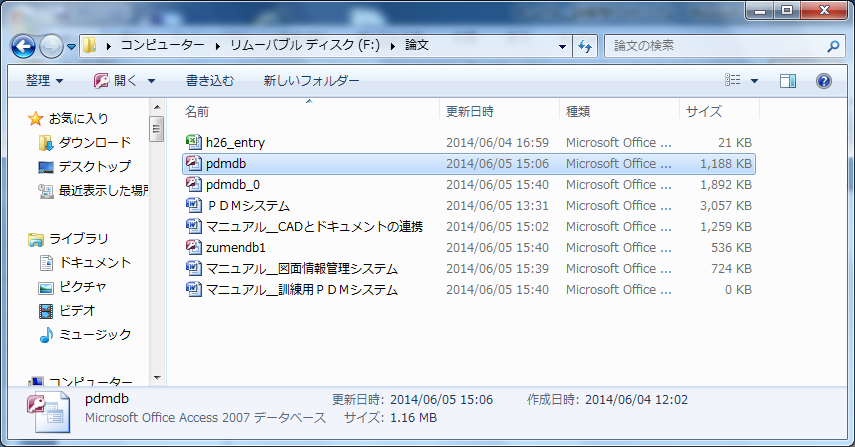
**操作マニュアル（訓練用ＰＤＭシステム）**

1. ファイル構成



訓練用ＰＤＭシステムは、上記画面にある「pdmdb.mdb」ファイルを使用します。

（もうひとつ「pdmdb\_0.mdb」ファイルがありますが、これは作成途中のものです）

ここでは「pdmdb.mdb」ファイルについて説明します。なお、見栄えは悪いですが直ちにに修正できるよう「ポップアップ画面にしていません」ので、必要なら各自判断でポップアップにしてください。

1. 使用するアプリケーション

　ｄｗｇファイルが開けるアプリケーションを用意してください。

　ＡＵＴＯＣＡＤシステムまたはＡＵＴＯＤＥＳＫ社のホームページから無償でダウンロードできる「TrueView」でもかまいません。  
　ＰＤＭシステム内部からアプリケーションを起動するので、アプリの格納先フォルダ（パス）を事前にチェックしておいてください。

1. 図面のファイル形式について

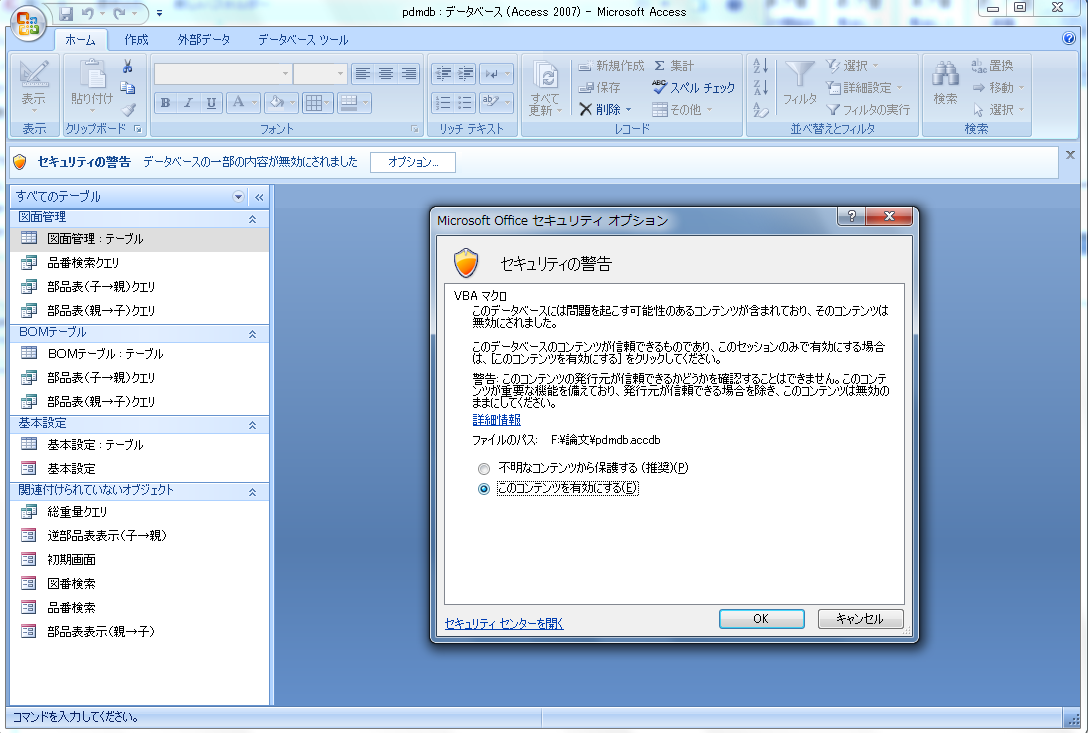
ＰＤＭシステムの起動プログラム内では、図面ファイルの形式は「dwg」ファイル固定としています。事前にdwg形式の図面ファイルを用意してください。

なお、今回添付のCD-Rには、Sample.dwg, S-De9000.dwg,Sample5.dwgの３ファイルを添付しています。

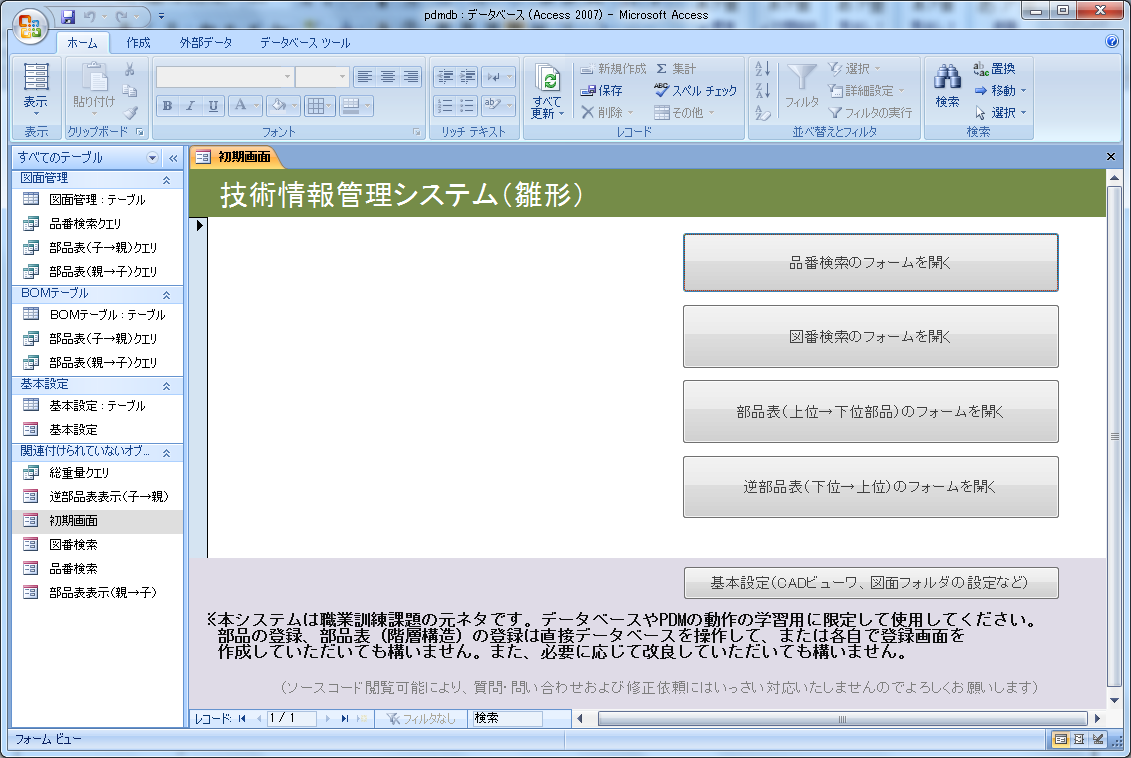
**※注意：本マニュアル中で使用している図面はファイル名『S-De9000.dwg』だけです。  
実運用ではファイル名と図面名は一致させて使ってください。**

1. 起動

図面情報管理システムと同様に「セキュリティの警告」が表示されるので、「◎コンテンツを有効にする」にしてシステムを起動してください。

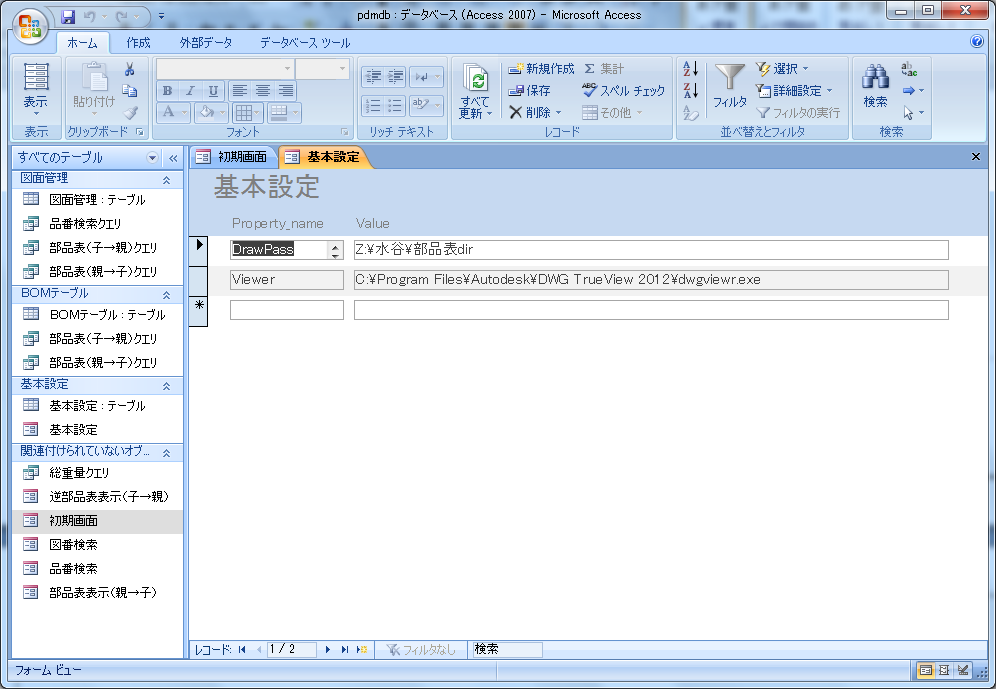


初期画面フォームをダブルクリックします。



1. 基本設定

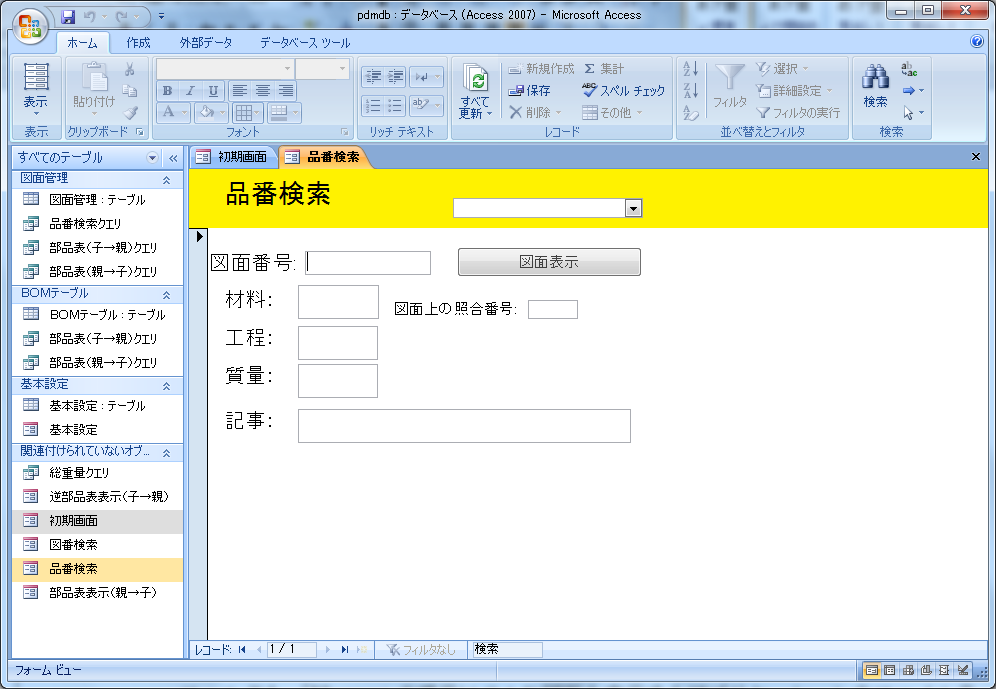
初期画面の右下にある「基本設定（ＣＡＤビューワ、図面フォルダの設定）」ボタンをクリックすると以下の基本設定画面が表示されます。



Property\_nameで「DrawPass」の項目(Valueの欄)に、ＣＡＤ図面データを配置するフォルダを、「Viewer」の項目にＣＡＤ図面を表示するアプリケーションのファイル名（上記画面ではTrueViewerのEXEファイル「dwgviewer.exe」をフルパスで指定しています）。本画面は「基本設定」テーブルをウィザードで作っています。

1. 品番検索

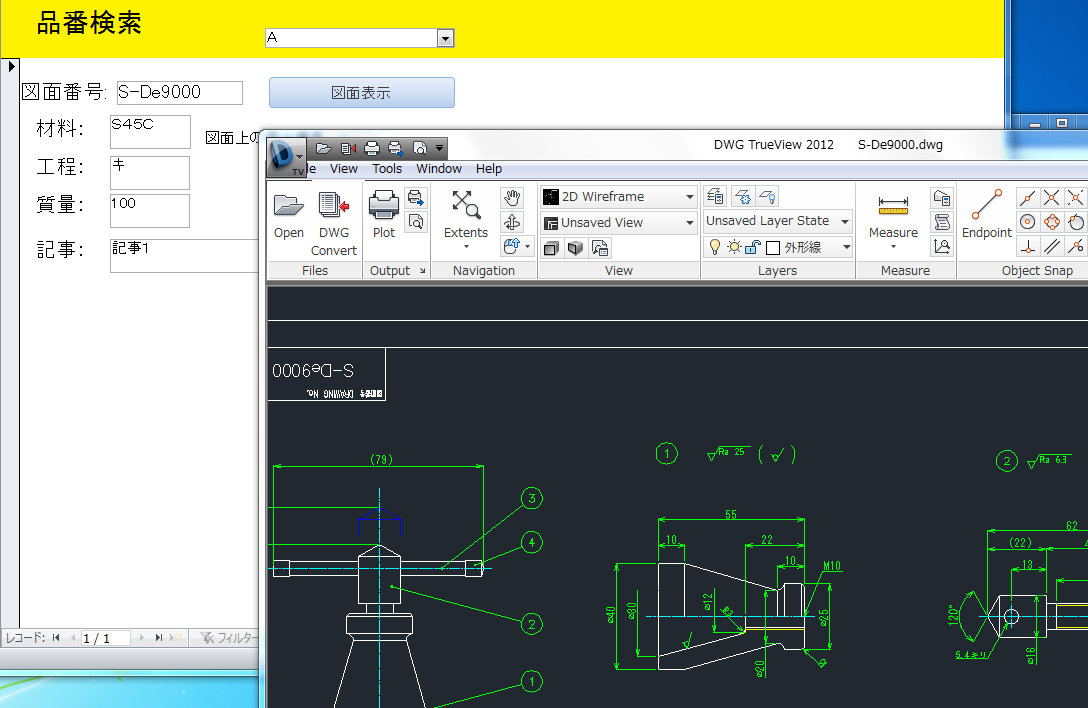
　「品番検索」画面は、図面情報管理システムの画面と基本同じです。  
　新たに「図面表示」ボタンを配置しています。



「図面表示」ボタンで使用しているＶＢＡマクロプログラムは以下の通りです（詳細は利用者自身で解析願います）。

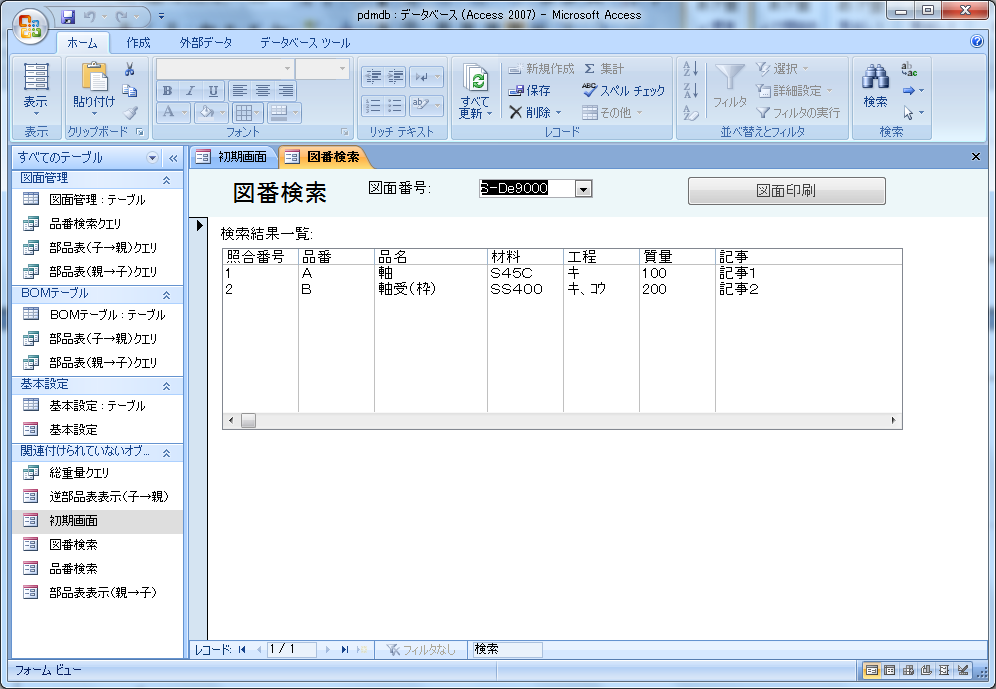


「図面表示」ボタン直後のTrueViewでの図面表示を以下に示す。

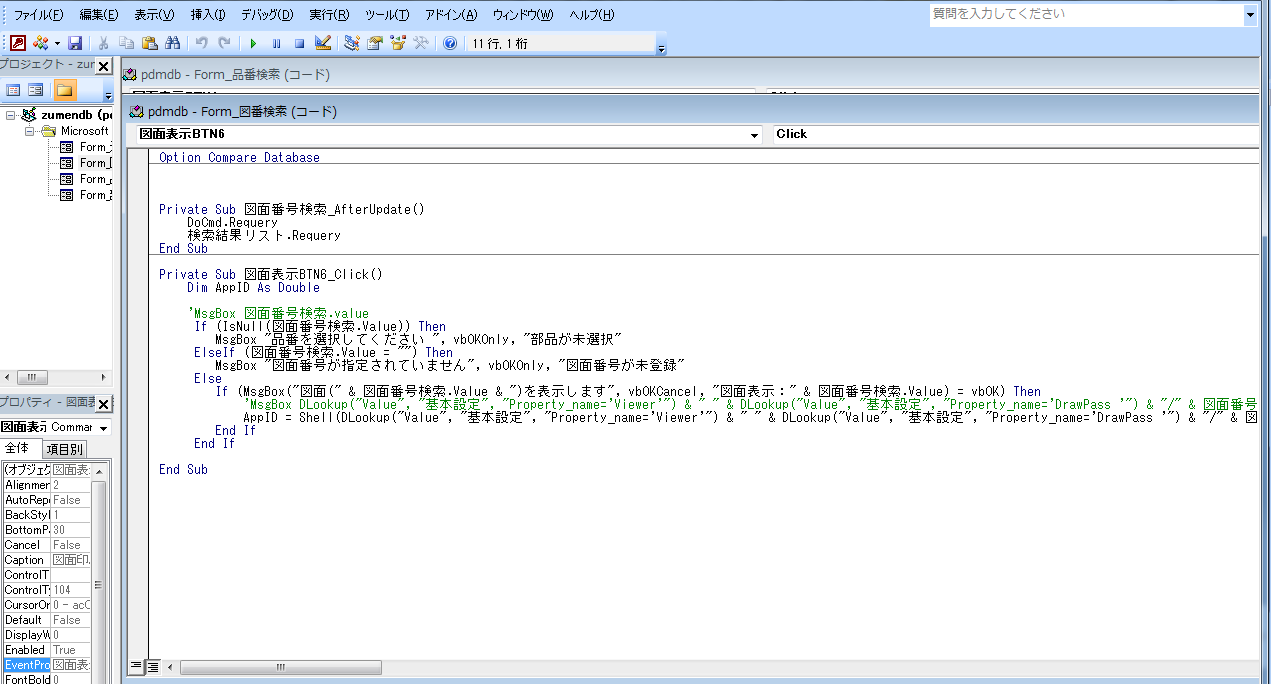


1. 図番検索

　「図面検索」画面も、図面情報管理システムの画面と基本同じです。  
　新たに「図面印刷」ボタンを配置しています（これは品番検索画面の「図面表示」ボタンと機能は同じで、画面に表示するだけです）。

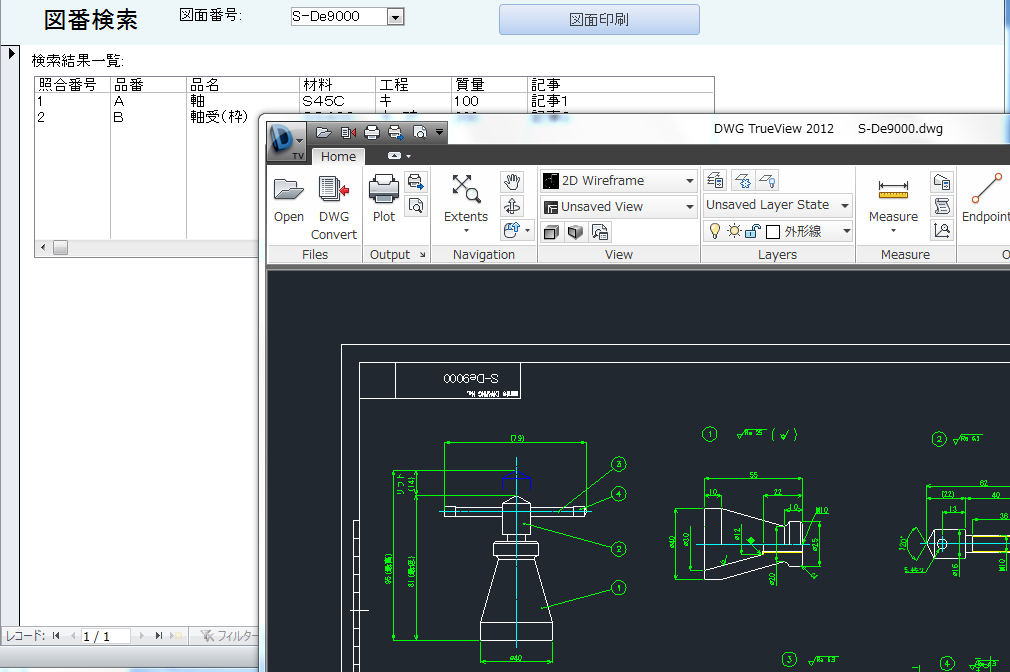


「図面印刷」ボタンで使用しているＶＢＡマクロプログラムは以下の通りです（詳細は利用者自身で解析願います）。



「図面印刷」ボタン直後のTrueViewでの図面表示を以下に示す。



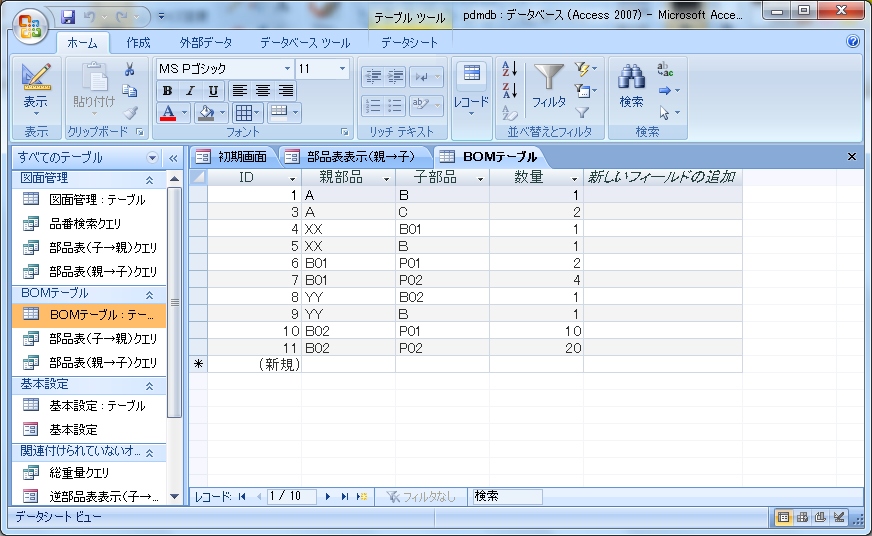


1. 部品表表示（親→子）

「部品表表示（親→子）」画面は、部品表を正順に表示する画面です。

部品の構成はあらかじめＢＯＭテーブルに書き込んでおきます（ＢＯＭテーブル書き換え用の画面は用意していませんので、テーブルを直接操作します）。

以下にＢＯＭテーブルの内容を表示します。



ここでは、以下のような部品構成を表しています。

品番YY

品番B02

(×1)

品番B

(×1)

品番P01

(×10)

品番P02

(×20)

品番XX

品番B01

(×1)

品番B

(×1)

品番P01

(×2)

品番P02

(×4)

品番A

品番B

(×1)

品番C

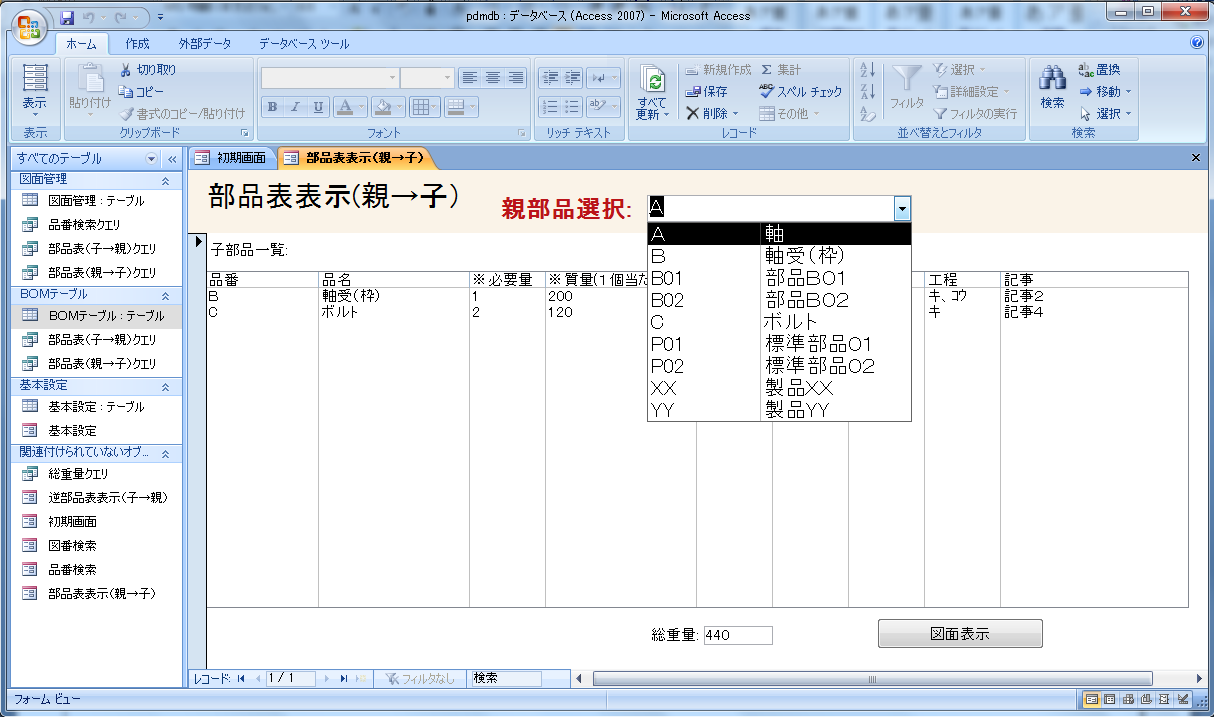
(×2)

なお、品番Ｂは、最上位部品Ａ，ＸＸ，ＹＹすべてで使用しています。

ＢＯＭテーブルの４列目には、使用する部品数を入力します。

「部品表表示（親→子）」画面は以下の通りです。

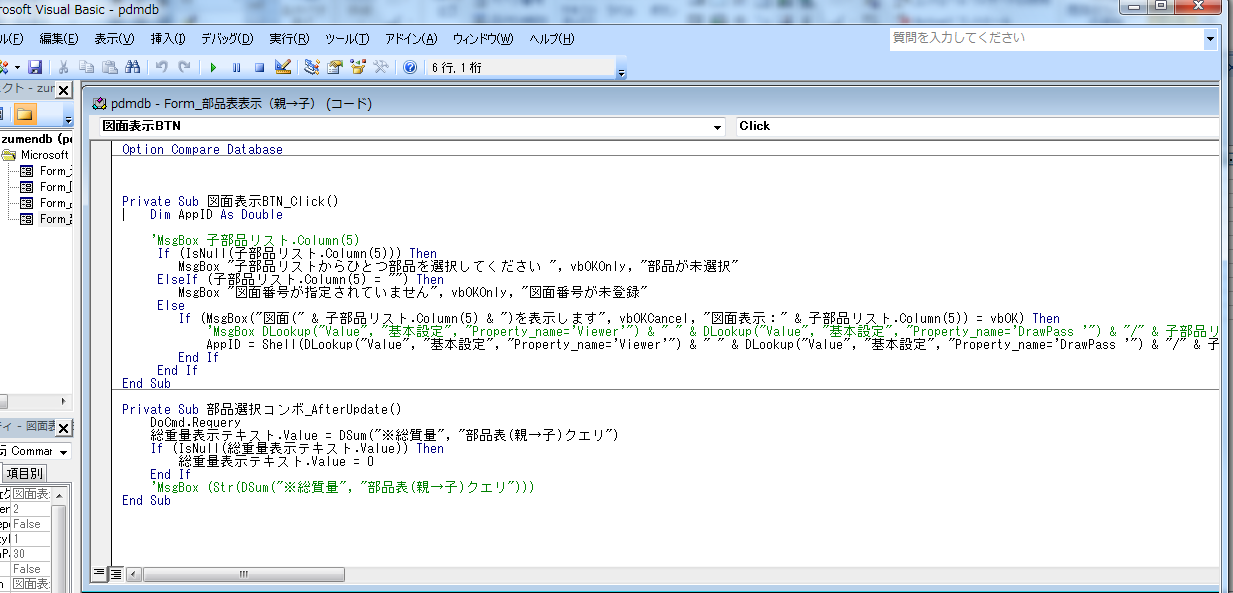
先の検索画面と同様に、「図面表示」ボタンを画面右下に配置しています。



「図面表示」ボタンのマクロは、先の検索画面の内容とほぼ同じです。

　また、総重量計算では、コンボボックス変更後に動く「Sub 部品選択コンボ\_AfterUpdate()」に組み込み関数「DSUM( )」を使用して総合計計算をしています。

（データベースの中に「総重量クエリ」が作ってありますが、今回は使用していませんので注意してください）。



「部品選択コンボ」を変更した画面を以下に示します。

1. 部品選択コンボに品番「Ａ」を指定した時



1. 部品選択コンボに品番「ＸＸ」を指定した時



1. 部品選択コンボに品番「ＹＹ」を指定した時



1. 部品選択コンボに品番「Ｂ０１」を指定した時



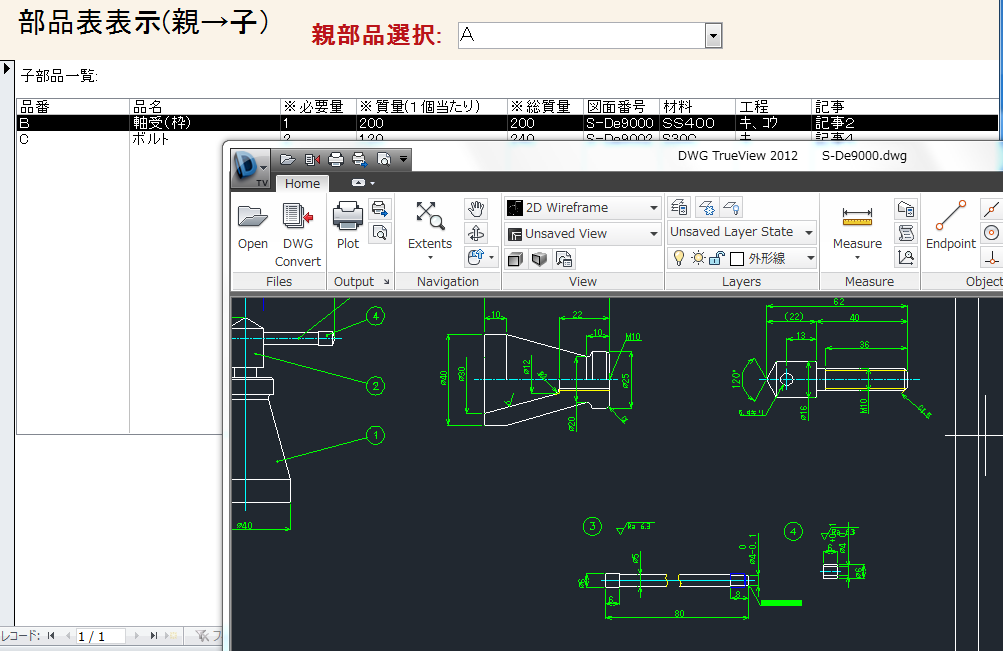
1. 部品選択コンボに品番「Ｂ０２」を指定した時



「図面表示」ボタン直後のTrueViewでの図面表示を以下に示す。

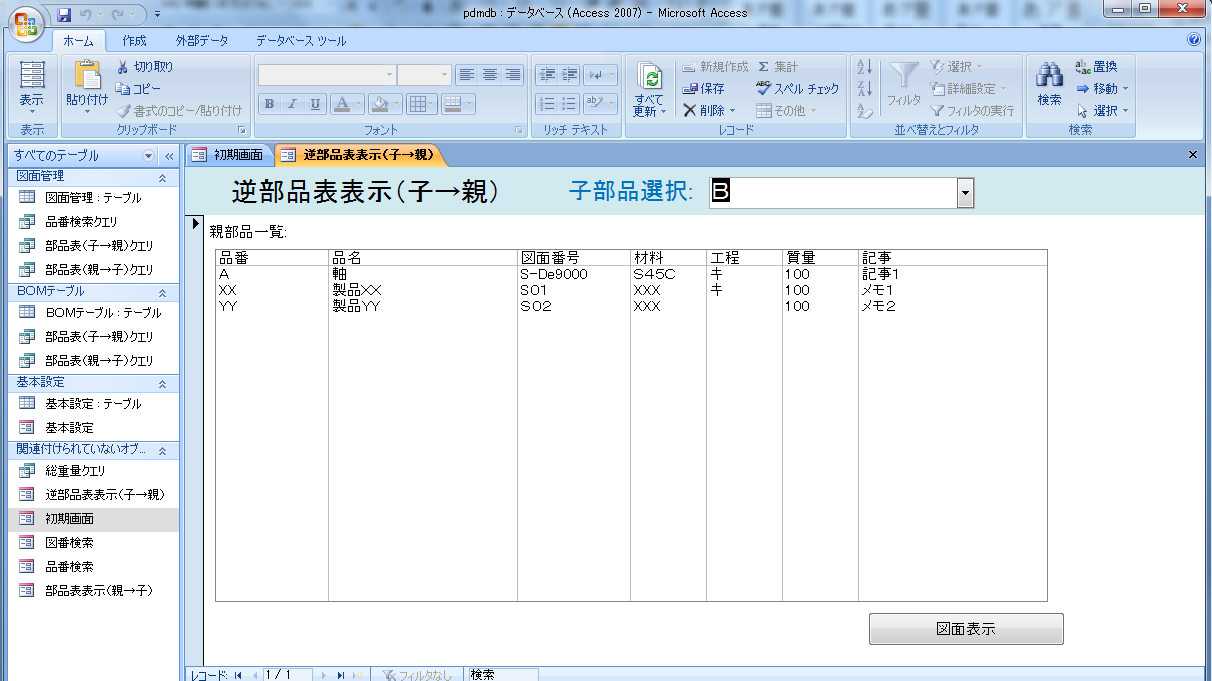






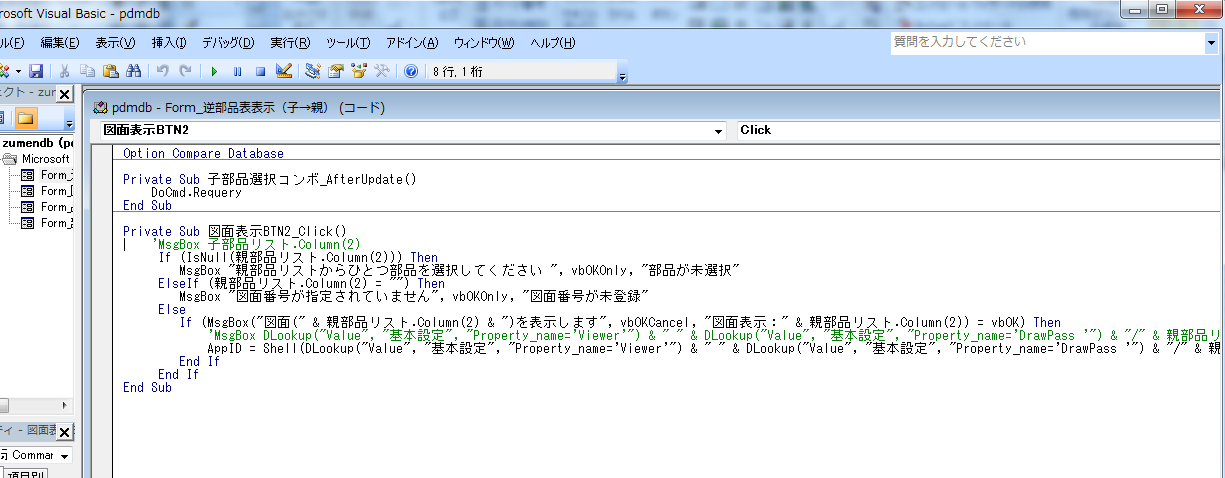
1. 部品表表示（子→親）

「部品表表示（子→親）」画面は、部品表を逆順に表示する画面です。



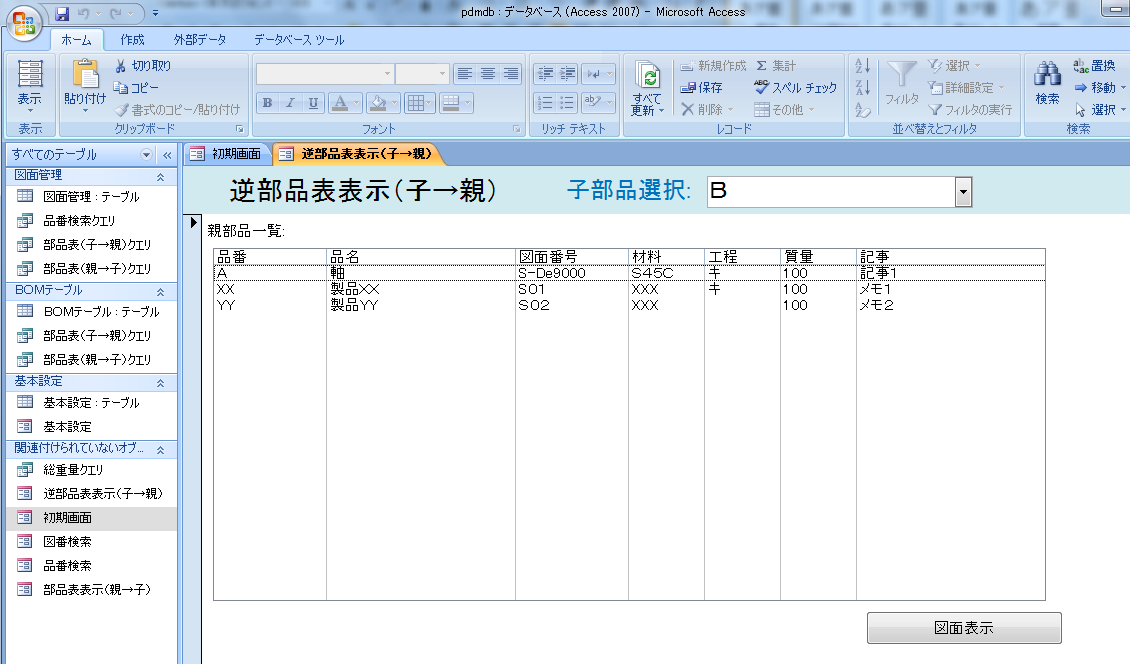
先の検索画面と同様に、「図面表示」ボタンを画面右下に配置しています。

「図面表示」ボタンのマクロは、先の検索画面の内容とほぼ同じです。

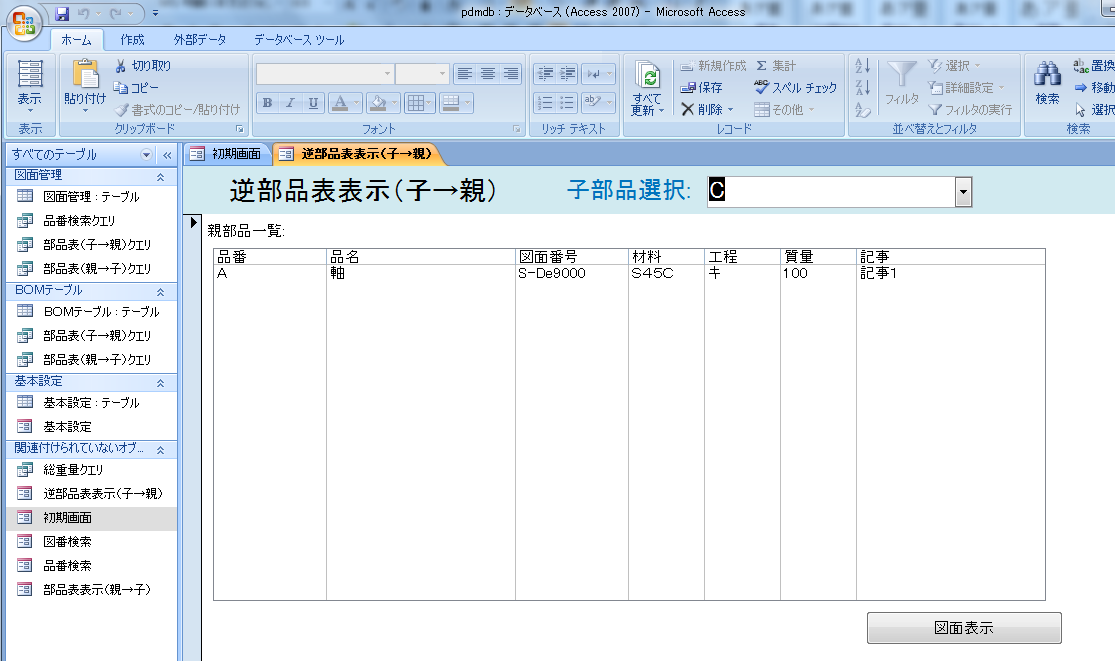


「部品選択コンボ」を変更した画面を以下に示します。

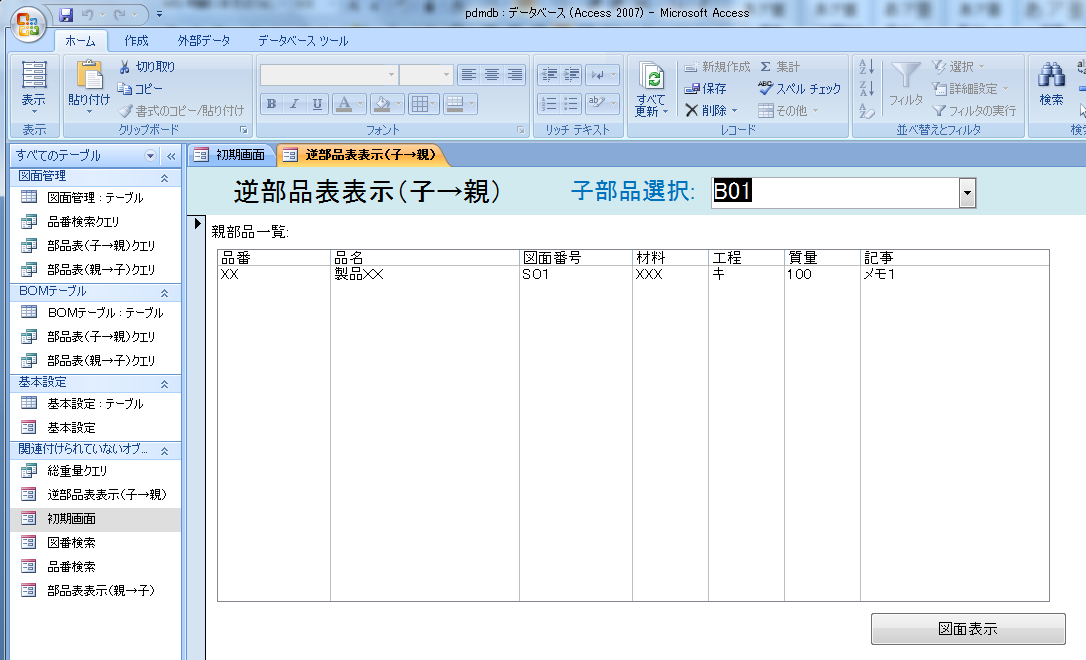
1. 部品選択コンボに品番「Ｂ」を指定した時



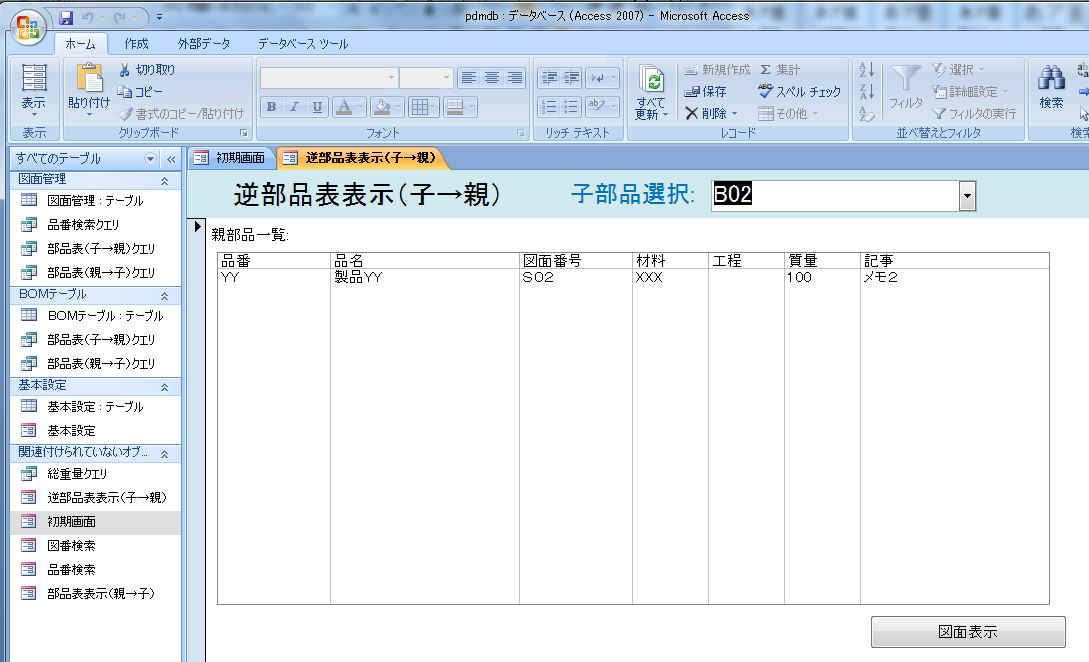
1. 部品選択コンボに品番「Ｃ」を指定した時



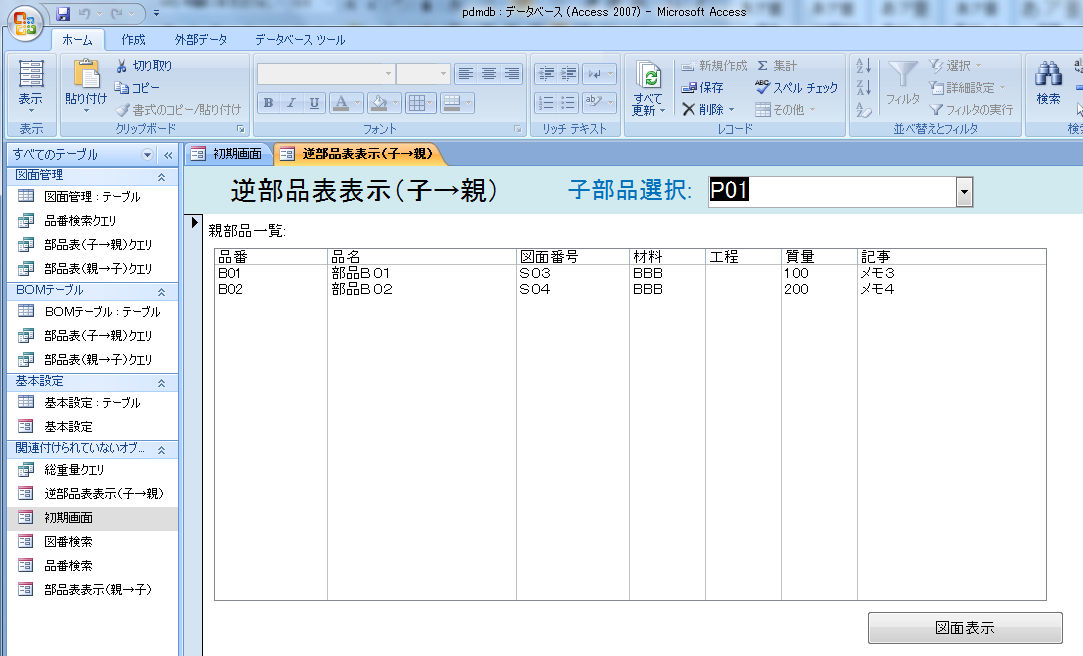
1. 部品選択コンボに品番「Ｂ０１」を指定した時



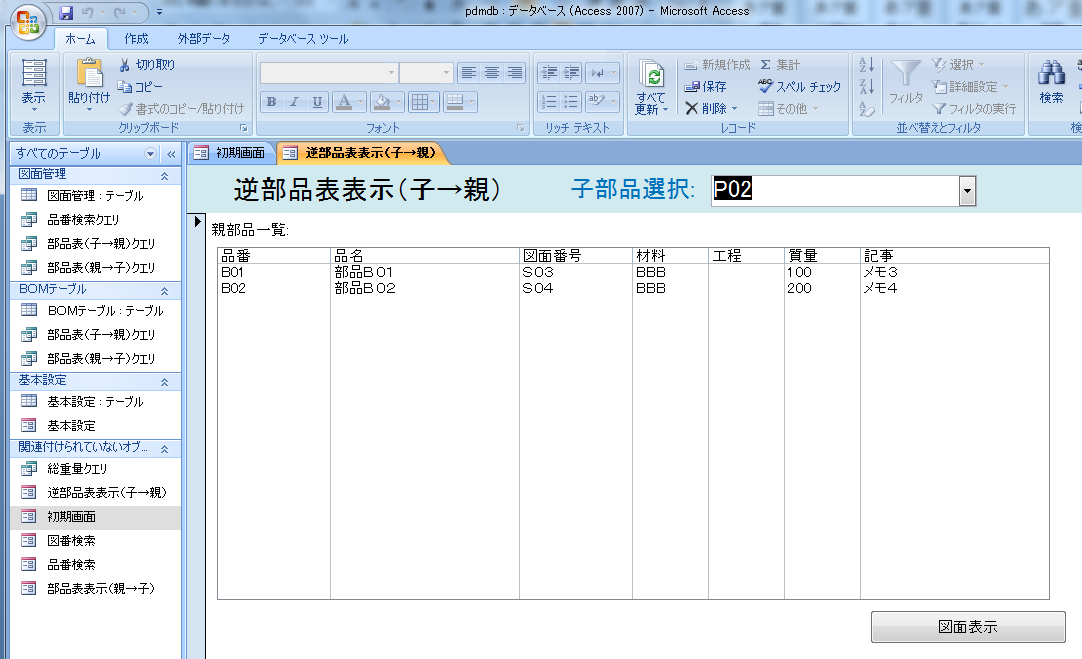
1. 部品選択コンボに品番「Ｂ０２」を指定した時



1. 部品選択コンボに品番「Ｐ０１」を指定した時



1. 部品選択コンボに品番「Ｐ０２」を指定した時



「図面印刷」ボタン直後のTrueViewでの図面表示を以下に示す。

